滿鐵調查報告

第三輯 17

MANTIE DIAOCHA BAOGAO

遼寧省檔案館 編

GUANGXI NORMAL UNIVERSITY PRESS
广西师范大学出版社

滿鐵調查報告

MANTIE DIAOCHA BAOGAO

第三輯 17

遼寧省檔案館 編

廣西師范大學出版社
GUANGXI NORMAL UNIVERSITY PRESS
·桂林·

目録

滿洲肉類加工業　滿鐵調査資料第四十一篇

滿鐵庶務部調査課　一九二四年九月 …… 1

滿洲砂糖事情　滿鐵調査資料第三十八編

滿鐵庶務部調査課　一九二四年七月 …… 214

紙漿工業調査

滿鐵庶務部調査課　一九二四年八月 …… 320

高粱酒調査書　漢譯調査資料第七編

滿鐵庶務部調査課　一九二四年九月 …… 361

滿鐵調査資料　第四十一篇

滿洲に於ける肉類加工業

南滿洲鐵道株式會社
庶務部調査課

凡例

一　本書は滿蒙に於ける肉類加工を經營せんとする者に對する參考資料たらしめんとせるものである。

一　從て本書は企業要素たる原料、勞力、動力並に金融及商業的調査の四部に分つ之を述べた。

一　本書の編纂は原料、勞力及動力の三篇は產業係員に於て第四部は商事係員に於て擔當した。

大正十三年八月十二日

庶務部調査課

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

要旨

滿蒙に於ける事業は種々多樣であるが就中肉類工業は將來慥に有望なる事業の一であると思ふ。何故なれば滿洲特に蒙古は肉獸の資源地であるから原料の價格は低廉で數量は可なり豐富である上に勞銀は安價であるし復た工場等の設備費も內地に比すれば比較的廉價である。殊に近來內地の肉類需要が著しく增加した爲朝鮮や山東方面から其輸出を仰いで居るが其でも尙不足を感ずると云ふ樣な狀態であるから我國に於ける食糧問題解決の爲にも亦一般產業奬勵の見地から言ふも、滿蒙の地で肉類工業を實現せしめて此の豐富なる滿蒙の肉獸を罐詰肉又は冷藏肉等として或は生牛の儘之を內地に仕向くる事の最も必要であることは何人も同感であらうと思ふ。其處で愈々之を實行するとせば年々果して幾何の原料を採り得るかと言ふに各方面から種々の觀察を遂ぐるに一年に先づ牛七、八萬頭乃至十萬頭、羊十七、八萬頭乃至二十萬頭、豚二、三十萬頭位は其手段方法を盡せば大した困難無く採り得る見込がある。而かも其價格は平均百匁に付牛肉は金二十五、六錢、羊肉及豚肉は金二十六、七錢であるから內地の其(內地は牛肉百匁最下七、

二

八十錢、最上一圓五、六十錢）に比すれば遙に低廉である。肉質も「スキ燒」用其他として內地肉や山東肉に遜色ありと言はるゝも若干時日肥飼を施せば頗る美味である。又肥育を行はない儘でも儲蓄肉としては第一位を占めて居るから先づ總ての方面から見て最も適當と思はれる位置即ち鐵嶺若は奉天附近に工場を設けて儲蓄肉又は冷藏肉、鹽漬肉、燻製肉等として內地其他に輸出せば將來は既度有利なる事業であると思ふ。

目次

第一部　原料に關する調査資料……一
一、肉用獸の種類……一
二、內地の需要肉量……四
三、肉用獸の總數……六
四、原料たり得る數量……一一
五、原料の需給上より見たる工業適地……二六
六、品質、成分及歩止り……二八
七、賣買價格及諸掛並各種の稅金……五一
八、買付の方法、時期及生畜の肥育……一三一
九、肉類加工品に就て……一三八
一〇、肉類工業の經營に就て……一四一
第二部　企業に關する勞働より見たる調査資料……一四三
一、屠獸場從事員の賃銀……一四三
二、肉類加工業勞力供給狀態……一四四

三、工業勞働者賃銀……一四四

第三部　各地動力及燃料調査資料……一四六

一、奉天……一四六
二、長春……一五六
三、鐵嶺……一六六
四、撫順……一六九
五、鄭家屯……一七四

附錄

(一)各地動力及燃料料金一覽表……一八五
(二)滿洲に於ける電力需給關係……一八六

第四部　企業地に關する商業的資料……一八八

一、土　地……一八八
二、建築費……一八九
三、商業地の家賃……一九一
四、小賣物價……一九二
五、金　利……一九六
六、勞　銀……一一九
七、製品販賣の便否……二〇二
八、製品包裝材料其他の運輸關係……二〇三

滿洲に於ける肉類加工業

第一部　原料に關する調査

一　肉用獸の種類

人口の增加と肉獸の蕃殖とは相伴ふことが出來なくて動もすると反對の趨勢を現出せんとする傾向がある之が爲馬肉の需要も益々多くなり尙兎の飼養、家禽の增殖等有ゆる方面に向つて供給の途が講ぜられつゝあるの狀態である、滿蒙に於ても亦略々同樣で寧ろ移住民たる漢人は一歩先んじて敢て惡食を厭はない。豚、牛肉は其の最も嗜好する所であるが羊、馬肉元より之を辭せない、狗肉、猫肉をも徒に之を棄てる樣な事はない。蒙古人は天然の牧羊適地に生活する關係上主として羊肉稀に牛及斃死馬を食用に供するも日本及滿洲では矢張牛、豚肉を主とし羊肉之に次ぎ、馬は其の主目的が役用であつて食用は從であるから今茲には世人が最も多く食用に供する所の牛、豚、羊に就て述ぶることにする。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

(一)　牛

滿洲の牛は極めて稀に「エシャ」「ホルスタン」等の洋種や彼等の雜種を認むるけれ共其大半は印度種であつて餘り良種でない、人に依りては東部は朝鮮系に南部は山東系に北部及西部は蒙古系に屬すと云ふも必ずしも當らない、然し滿洲產は一般に蒙古牛系統のものが最も多きは事實であつて朝鮮系も亦少くない。特に吉林省の東南部、奉天省の東部に於て然りである。山東牛の血統も奉天省の南部附近に於て之を見るけれ共一般に血種の混交、形態の紛亂甚しきものありて未だ何等起原分類に就て調査研究の確たる根據を有するに至らない唯僅に生產地方の名に依て便宜分類するの狀態に過ぎない。然し乍ら蒙古牛には少く共二種の異れる種類がある。其の一は有角種であつて他の一は無角種である。形態學上、遺傳學上各血液が明瞭に固定して一品種を形成して居る事を疑ふことは出來ない。無角種は特に烏珠穆沁地方に多く見る所であつて有角種よりも體形が稍々巨大である。其外尙通稱吉林牛と呼ばるゝものゝ中にも既に固定せる一品種を認むることが出來る、然し以下說く所の名稱は便宜上主として生產地方の名に基いて概ね次の如く稱へることにする。

(一) 北滿牛（主として東支鐵道沿線より輸出せらるゝもの）
(二) 南滿牛（主として南滿鐵道沿線の地方より出づるもの）
(三) 內蒙牛（東部內蒙古より輸出せらるゝもの）
(四) 山東牛（山東省地方より輸出せらるゝもの）

(二) 緬羊及山羊

滿蒙在來の緬羊は亞細亞種に屬し白色のもの最も多く頭頸部黑褐色等の斑紋あるもの之に次ぎ、全黑若は全褐色は極めて稀である。而して公主嶺農事試驗場では「メリノー」「サウスダウン」「シュロップシア」「カラクール」種の牡を蒙古在來種牝に交配して雜種改良を行ひつゝあるが其の成績は良好である、山羊は全然蒙古在來種のみで其色白黑最も多く黑白駁毛も亦少くない。

(三) 豚

豚は支那人之猪（ツウ）と謂ひ食用家畜として最も多く一般に飼養され、回々教徒を除く外は貴賤上下の別無く豚肉を嗜好するが故に苟くも支那人の住む所殆ど之を飼はない處はないのである。豚は滿洲在來種に黑猪（二民猪）白猪（荷包猪）及花猪（大民猪）の三種がある。黑猪は成長遲きも肉味最も佳良で且體量が大きく生後二十

箇月位で三十貫乃至三十五六貫に達するものがあるので此種が大部分を占めて居る。白猪は性質虚弱で脂肪少く肉味も亦黒猪に及ばない、體格矮小なるも發育迅速で生後七、八ヶ月で成熟し、滿一箇年内外のもの體重二十二三貫位になる。花猪は、體形最も大にして晩生である此種は北滿地方に多く見るが南滿には少い、大抵二、三歳で屠殺されると云つて居る。又公主嶺農事試驗場では「バークシヤ」種牡を滿洲在來種牝に交配した雜種を生産せしめたが其の結果は良好である。

二　内地の需要肉量

内地に於ける獸肉の需要は近來非常に増加し現に昨大正十二年に消費した肉量は

牛約一億萬斤（一頭の平均肉量二五〇斤とすれば四十萬頭）　一人當　一斤六

馬約一千三百萬斤（一頭の平均肉量二五〇斤とすれば五萬二千頭）

羊約三十萬斤（一頭の平均肉量四〇斤とすれは七千五百頭）　一人當　〇斤二

豚約四千萬斤(一頭の平均肉量一五〇斤とすれば二十七萬頭)　一人當　〇、斤〇〇五

合計一億五千三百三十萬斤(七十二萬九千五百頭)　一人當　〇、斤七

右の通りであつて丁度一人平均二斤半に當り之を佛國の八十六斤、英國の百二十斤、獨逸の七十七斤、米國の百八十五斤に對比すれば少ない樣であるが、然し我國の現況から言へば需要牛一箇年四十萬頭と云ふ數は決して侮ることの出來ない數である。

何故なれば最近農商務省の調査に依れば內地牛の現在頭數は百三十七萬六千餘頭なりと稱せらるゝも、其の大部分は農耕、運搬、搾乳用等の役牛であつて肉用として飼育されたるものは眞に少數に過ぎない、又一箇年の生產額は今の處二十三萬頭內外であつて尙此內には斃死や撲殺等もあるから實際食用肉として採り得る數は多くも一箇年二十萬頭を超ゆることは困難である、故に到底內地丈けで其の需要を充すことは出來ない、現に昨大正十二年には朝鮮から生牛約五萬頭と生

肉約一萬頭分、又青島から生牛約一萬頭と生肉約四萬頭分とを輸入して其の不足を補ふて居る有樣で昨年內地で屠殺した數丈けでも朝鮮牛や青島牛を合せて約二十七萬頭の多額に上つて居るが其れでも約十萬頭の不足である、將來は尙一層需要の增加と共に益々不足を來すことは明かである、然らば此の不足は將來何處から仰ぐへきかと言ふに唯々之を滿蒙の地に求むるの外はないと思ふ。何故なれば朝鮮と雖も現在に於ける家畜の總數は

牛　百五十二萬五千頭(牡五十二萬三千、牝百萬二千)

緬羊　二千頭　山羊　二萬二千頭

豚　約百萬頭(在來種八千頭、改良種十二萬頭、其他八十七萬頭)

右の通りであつて其の生產額は約三十萬內外であると言ふが其の內朝鮮丈けの需要が約二十二、三萬頭であるから他へ輸出し得る數は通常六、七萬頭に過ぎない之は昨年の內地輸出六萬頭なるに徵しても明かである。又山東牛と雖も從來の輸出統計に依り一箇年五、六萬頭以上を採ることは困難の狀態にあるからである。

三　肉用獸の總數

滿蒙に於ける家畜の總數は全く曖昧であつて幾多の統計や著書等に種々記載してあるが皆區々で果して何れに信を措くべきや判斷に苦しむ處である。然し別項述ぶる通り諸種の原因に依て漸次減少の傾向にあることは爭ふべからざる事實であつて實際親しく現地を踏査して見ると從來各人の唱ふる數は概して誇大に過ぎたるの感がある、夫れ故實際の企業に當りては眞に蒐集し得べき最少限度を目途として着手しないと大なる錯誤失敗を來すことになると思ふ。

尙參考の爲總頭數に關する諸說を掲載すれば概略別表の如くであるが今其最少數を採用するものとせば次の通りである。

(一)奉天省
- 牛　三十萬頭
- 羊　四十萬頭
- 豚　三百五十五萬頭

(二)吉林省
- 牛　六萬六千頭
- 羊　十萬頭
- 豚　百二十五萬頭
- 牛　十三萬五千頭

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com